

1. 補助対象となる改修の種類

(1) 手すりの取付け

廊下、便所、浴室、居間、階段、玄関、玄関から道路までの通路等に転倒防止もしくは移動または移乗動作に必要と思われるもの。

(2) 段差の解消

各室間の床段差及び玄関から道路までの通路等の段差の解消・緩和
(持ち運びが可能なものは補助対象外)

- ・敷居を低くする
- ・スロープの設置（幅 1m まで）
- ・浴室床等のかさ上げ
- ・浴槽の取替え（またぎ高さ、浴槽深さ、浴室床と浴槽底の高低差が軽減される場合に限る）
- ・階段の段数の増加

(3) 滑り防止及び移動の円滑化のための床または外構通路の材料の変更

- ・畳敷きから板張りや クッション性の高いシートへの変更
- ・浴室の床の滑りにくい材料への変更
- ・外構通路面の滑りにくい舗装材、仕上げ材への変更

(4) 引き戸等への扉の取替え

- ・開き戸を引き戸、折れ戸、アコーディオンドア等に替える
- ・使いやすいドアノブへの変更や戸車の設置、交換
- ・引き戸の新設（開き戸を引き戸に交換するより費用が廉価に抑えられる場合に限る）

※ 自動ドアの引き戸を設置した場合、動力部については補助対象となりません。

(5) 洋式便器等への便器の取替え

- ・和式便器の洋式便器への取替え
- ・既設洋式便器の取替え（座面高さを高くする場合に限る）

※ 和式便器を洋式便器に交換する場合に限り、暖房や洗浄機能を有する洋式便器も対象となります。

(6) (1) ~ (5) の住宅改修に付帯して必要な住宅改修

- ・手すりの取付けのための壁下地の補強
- ・浴室床の段差解消に伴う給排水工事
- ・床材変更のための下地の補修、補強及び断熱材の充填
- ・外構通路の舗装をする際の路盤の整備
- ・扉の取替えに伴う壁または柱の改修工事
- ・便器の取替えに伴う床材の変更、給排水設備工事（水洗化、簡易水洗化に関わる部分及び電気工事は補助対象外です。）

2. バリアフリーチェックポイント

下表のバリアフリーチェック表で住宅の状況を確認してください。チェックの数が多いと今後生活しにくくなる可能性があります。

場所	ポイント	内容	チェック
玄関	床	滑りやすい材質	
	手すり	上がり框の昇降、靴の着脱用手すりがない	
廊下	床	滑りやすい材質	
	手すり	歩行の手助けとなる手すりがない	
	段差	部屋の入り口に段差がある	
階段	踏み面	滑りやすい材質	
	手すり	手すりがない	
トイレ	床	滑りやすい材質	
	手すり	立ち座り用手すりがない	
	扉	扉が開き戸	
	便器	和式便器	
浴室	床	滑りやすい材質	
	手すり	浴槽出入り用・姿勢保持用のための手すりがない	
	浴槽	浴槽が深い	

3. 取り付けのポイント

「手すりの取り付け」や「段差解消」のポイントをまとめました。一般的な内容を記載していますのでメーカーの使用基準がある場合はそちらを遵守してください。

(1) 手すりの取り付け

① 設置方法

■ 連続性等

廊下・階段の手すりは、連続して設ける。

■ 高さ

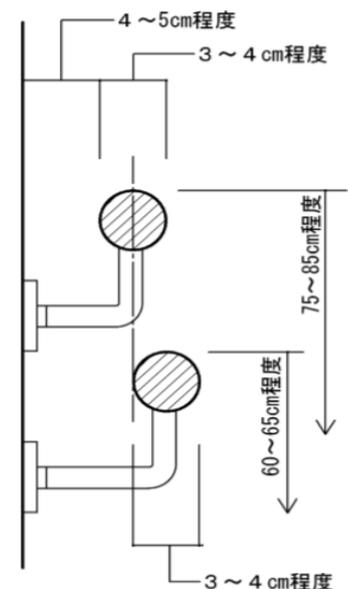
手すりの上端の高さ（通路、廊下、傾斜路、階段）は以下の通りとする。

1 本の場合 $H = 75 \sim 85$ cm程度

2 本の場合 $H = 75 \sim 85$ cm程度 $H = 60 \sim 65$ cm程度

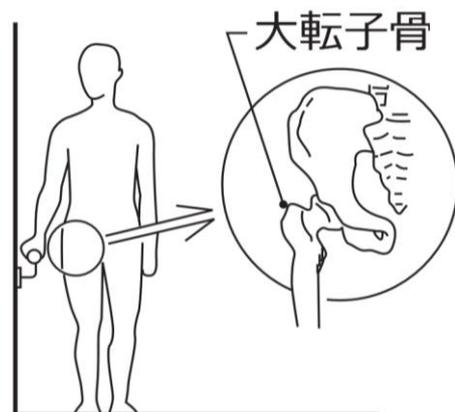
■ 壁との関係

- ・壁との間隔は、4～5 cm程度とし、手すりの支持は、手の動きを妨げないよう下側で行う。
- ・手すりを取り付く部分の壁の仕上げは、握りそこなった手が落ち込んだ場合を考慮してなめらかな仕上げとする。



※手すりの高さは、使う人に適した位置に合わせるようにしてください。

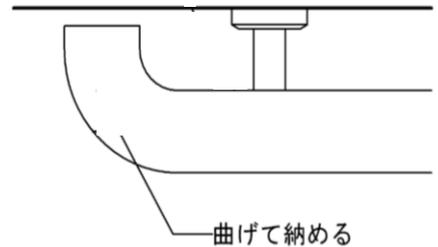
ちなみに、一般的に大腿骨付け根の大転子骨の高さや、腕を真っすぐ下した状態で手首の位置が最適といわれています。



②形状と材質

■形状

- ・断面の形状は、円形等握りやすいことを第1の条件とし、外径3~4cm程度とする。
- ・衝突時の危険性を少なくし、服の袖の引掛りを避けるため、手すりの端部は、壁側に曲げる。



■材質

- ・肌触りがよく、耐食性、耐久性があり、維持管理の容易なものとする。
- ・階段、傾斜路等の手すりは、体重をかけた時に滑りにくいものとする。

③壁下地

手すりは身体機能が低下した場合にも対応できるように、あらかじめ広範囲に壁下地の補強をしておくことが望ましい。

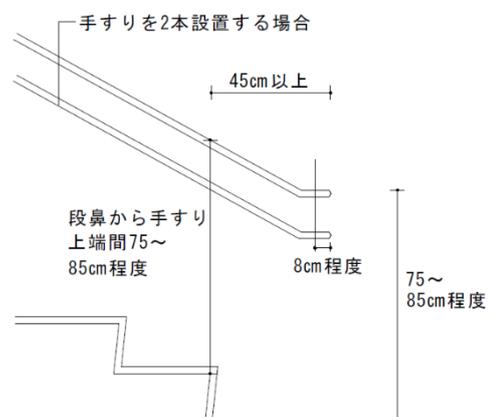
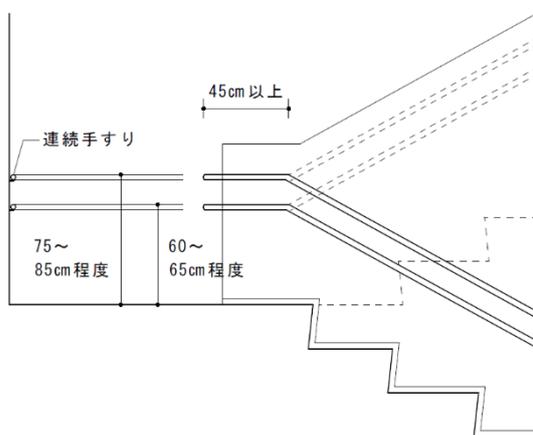


④手すり取り付けポイント

■階段 両側に連続して手すりを設置することが望ましい。

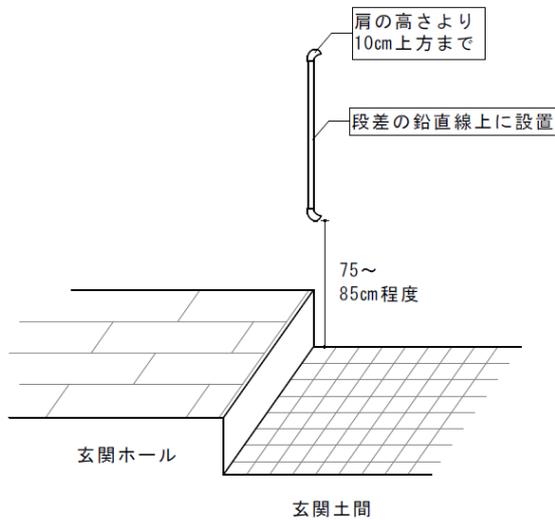
踊場にも連続させ、途中で途切れないようにすることが望ましい。

階段の上端では45cm以上水平に延長し、下端では斜め部分を含めて段鼻から45cm以上手すりを延長することが望ましい。

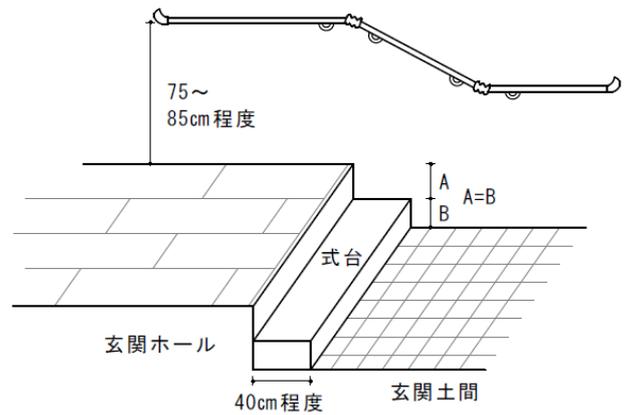


■玄関 上框の昇降、靴の着脱用手すりを設置する。

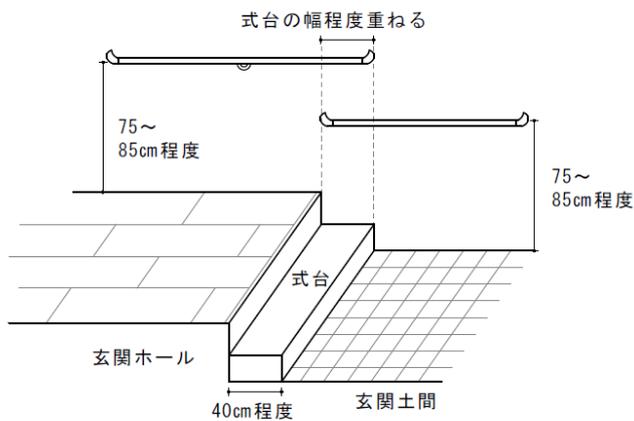
1. 縦手すりの場合



2. 勾配に合わせて設置する場合



3. 水平に2本設置する場合



※式台については、釘やネジ等で固定したものは床段差の解消として補助対象となりますが、持ち運びが可能なものは補助対象になりません。

■便所 立ち座り用手すりを設置する。

・縦手すり

便器先端から 25 cm程度が使いやすく、肩の高さより 10 cm程度上方まで伸ばし設置することが望ましい。

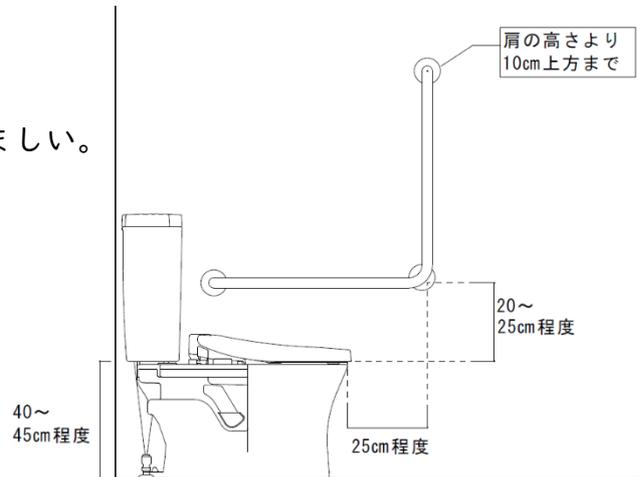
・横手すり

便座高さから 20～25 cm程度が望ましい。

※便座について

立ち座り動作は座面高さが若干高い方が行いやすい。

床から 40～45 cm程度が望ましい。



■浴室 浴槽出入り用・姿勢保持用のための手すりを設けることが望ましいが

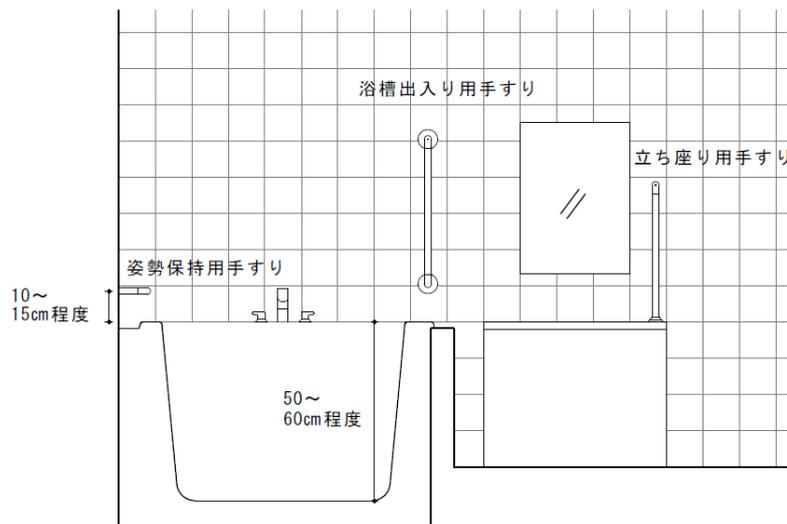
使用者の身体状況に適したものを必要な場所に取り付ける

・浴槽出入り用手すり

洗い場側の浴槽の縁の鉛直上に設置する

・姿勢保持用手すり

浴槽の縁から 10～15 cm程度の位置に設置する

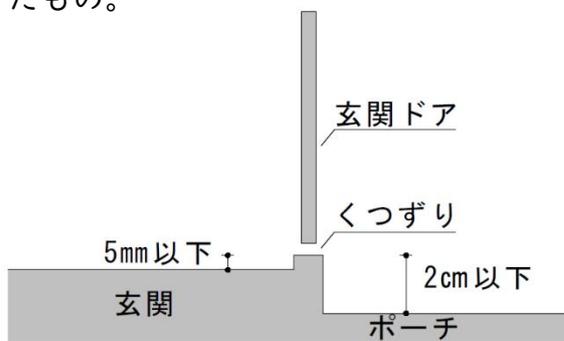


(2)段差の解消

①段差の高さ

原則として移動経路は段差のない構造とすることが望ましいですが、段差高さが5mm以下であれば、つまずきを生じる可能性は非常に小さくなります。段差のチェックポイントを1～3に記載していますので参考にしてください。

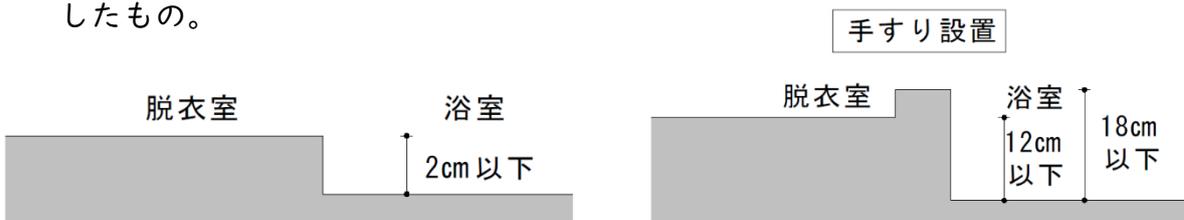
1. 玄関の靴ずりと外部の段差で、2cm以下（玄関と靴ずりは5mm以下）としたもの。



※記載されている寸法より大きい場合、床面のかさ上げなどにより段差解消することが望ましい。

2. 浴室の出入口で、単純段差（2cm以下）。

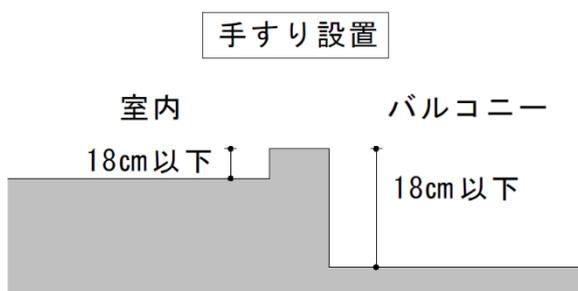
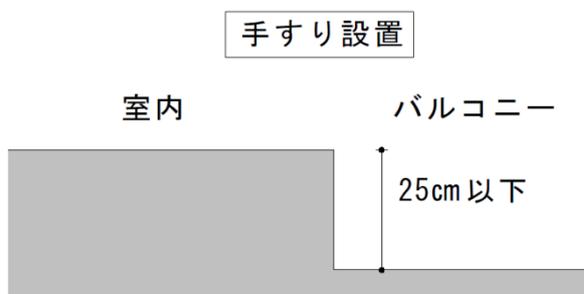
又は浴室内外の差を12cm以下、またぎの高さを18cm以下とし手摺を設置したもの。



※記載されている寸法より大きい場合、転倒防止のため縦手すりを設置することが望ましい。

※記載されている寸法より大きい場合、浴室側の床面のかさあげなどにより段差を緩和・解消することが望ましい。

3. バルコニーの出入口で、18 cm以下の単純段差。これ以上になる場合は25 cm以下の単純段差とし手摺を設置したもの。
又は内外のまたぎの高さを18 cm以下とし手摺を設置したもの。



※記載されている寸法より大きい場合、踏み台などを設置し段差を緩和することが望ましい。

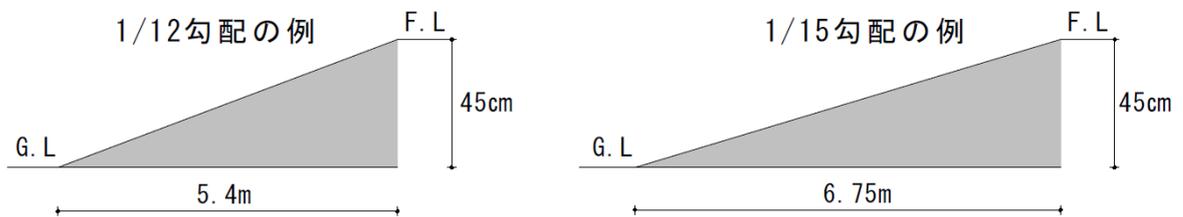
バルコニーの床をかさあげする場合、バルコニーとサッシの段差が少なく、立ち上がりが十分ないとサッシ付近から漏水してしまう恐れがあります。施工業者と十分検討し改修してください。

※バルコニー全体の床面のかさあげは補助対象となりません。

②屋外の段差解消

■スロープの設置

- ・勾配は $1/12$ 以下とする。(水平距離 12m で高低差 1m)
- ・段の高さが 16cm 以下の場合は、 $1/8$ 勾配以下とすることができる。
($1/12$ 勾配以下としない場合には、手すりを設ける方が望ましい。)
- ・雨天時等を考慮して $1/15$ 勾配以下が望ましい。
(水平距離 15m で高低差 1m)



※身体状況によってはスロープよりも階段のほうが適しているなどの場合もあるため、使用される方がどのような移動方法が最も適しているのかを確認してください。

■仕上げ材料

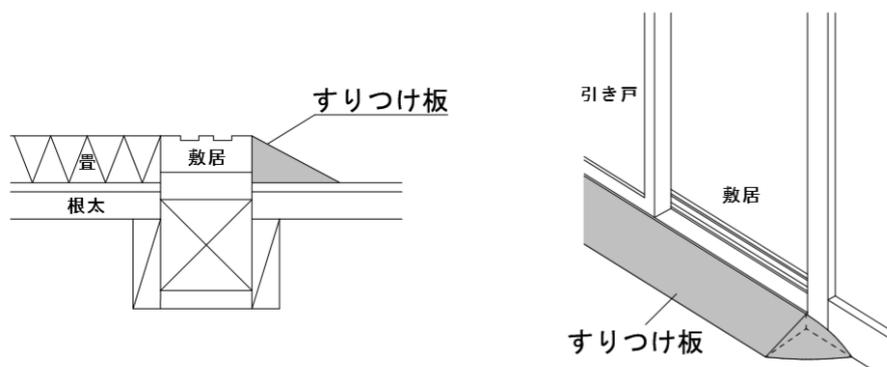
- ・滑り止め加工を施す等、濡れても滑りにくい材料・仕上げとする。
- ・傾斜路の上端・下端または傾斜路全体を、色彩、色相または明度の差、輝度比等が確保された材料で仕上げる。

③屋内の段差解消

■すりつけ板

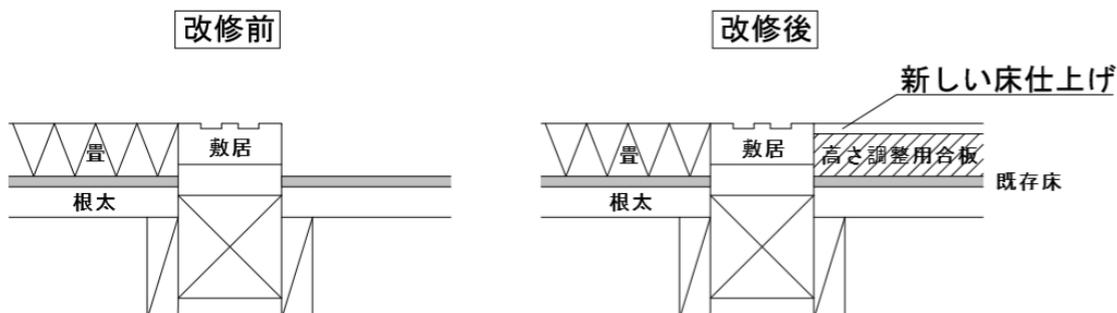
- ・段差をなくすために高い部分と低い部分とに渡すくさび形状の板のこと。
- ・敷居段差を解消するために、最も簡易な方法として、すりつけ板を設置する。
- ・すりつけ板の表面には滑り止め加工を施し、すりつけ板上で足を滑らせないようにする。
- ・端部仕上げが考慮されていないと端部につまずく危険があるため、端部も床面にすりつけた状態で仕上げしておく必要がある。

※釘やネジ等で固定したものは床段差の解消として補助対象となりますが、持ち運びが可能なのは補助対象になりません。



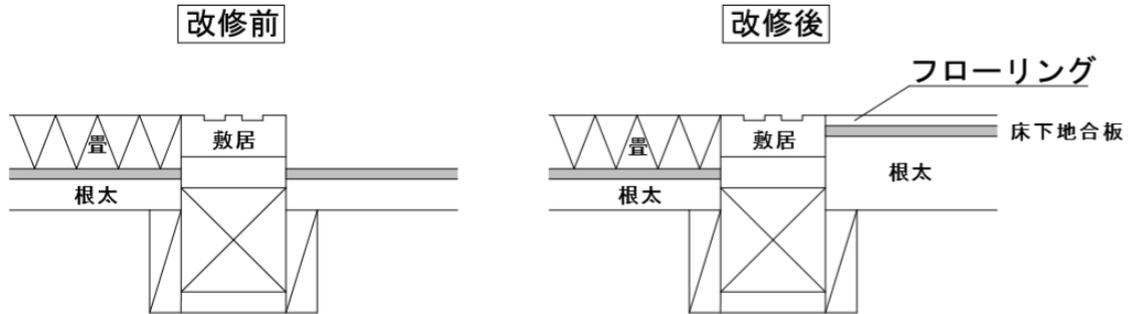
■合板でかさ上げする

既存の床仕上げの上に合板や木材などを設置してかさ上げし、その上に新しい床を敷いて段差を解消する。



■根太で高さを調整する

床下の高さを高くして、段差を解消する。



■その他

立ち上がりのための玄関ベンチ

手すりはベンチの端から20~25cm程度の位置に設置することが望ましい。

※釘やネジ等で固定したものは床段差の解消として補助対象となりますが、持ち運びが可能なものは補助対象になりません。

